

高視認性安全服普及へ

JAVISIA
第2回総会 早ければ7月にJISS化

道路上作業者用の作業服などの普及活動を進めている日本高視認性安全服研究所（JAVISIA）は5日、第2回会員総会「安全創造会議」を開いた。

JAVISIAは13年に設立、「路上作業者の人対車両事故をゼロに、児童・通勤者・お年寄りの人対車両事故をゼロに」を掲げ、高視認性安全服の啓発を進めている。素材メーカーや商社、ユニフォーム関連企業、着用ユーザー、自動車メーカーなどが加盟、会員数はこの1年間で31社増え76社となった。

高視認性安全服は、94年に欧州規格EN471が発効、99年には米国でも同様の規格ができることから、自動車保有台数の多い国に広がっている。さらに13年には、ISO（国際標準化機構）20471として国際基準

が発効した。

この中で日本ではJISS（日本工業規格）策定の機運が高まり、JAVISIAが原案作りなどで中心的役割を担っている。JISS規格は15年中に発効する見込みで、「現在のペースで進めば7月ごろには官報に公示されるのでは」とみている。

JAVISIAは、「裏付けのある安全」を基本方針に路上作業者や高齢者、子供などの路上事故を無くすため、高視認性安全服の啓発、普及に力を入れる。

今後は、会員企業の拡大と併せて、軽量で涼しい高視認性安全ユニフォームやスポーツ用のウェアやシューズ、ファッショ性に優れた安全服など着用ユーザーのニーズに応える安全服の普及に力を注ぐ。